

雪国のお父さん、お母さんの声から生まれた「子育ての駅」運営事業

施策のポイント

緑あふれる広々とした公園の中に、雨や雪の日でも遊べる全天候型の広場と子育て支援施設を一体的に整備した長岡オリジナル“保育士のいる公園”

自治体情報

新潟県長岡市

人口 / 283,631人

標準財政規模 / 69,358,828千円

担当課 長岡市教育委員会子ども家庭課

電話番号 直通 0258-39-2300

実施主体 長岡市

関連ホームページ http://www.city.nagaoka.niigata.jp/kosodate/k_eki/

事業期間 平成21年度から

参考とした施策

関係施策分類

施策の概要

1 取組に至る背景・目的

核家族化の進行、地域のつながりの希薄化、家計の逼迫化などにより、育児不安を抱える保護者が増えている。特に本市では、家にとじこもりがちな降雪期でも気軽に集いあえる子育て支援の場の整備及びソフト事業の実施を望む声が多く寄せられている。(本市の次世代育成支援対策行動計画後期計画策定に係る市民ニーズ調査等)



2 取り組みの具体的内容

(1) 取組の概要

子育て世帯の親子をはじめ、子育ての先輩や次代の親となる若者など多くの方が集いあい、ふれあうことで、世代を越えた交流や子育て支援の輪が広がっていくことを推進するため、平成21年5月5日(こどもの日)に全国初の子育ての駅千秋(愛称:てくてく)を開設。愛称は市民の投票で選定。

(2) 子育ての駅てくてくの概要

- ① 規模 施設・・・約1,300㎡ 公園・・・2ha
- ② 対象 主に乳幼児とその保護者
- ③ 運営コンセプト

運営は、利用者(公募市民)で構成する「子育ての駅運営委員会」で協議。「サポーター」に登録していただいている方の協力をいただきながら運営。利用者から育てていただく子育て支援施設。

④ 主な役割

- ・育児ストレス解消の場。子どもをのびのびと遊ばせながら、ワイワイおしゃべりできる場
- ・育児不安軽減の場。子どもの遊び場だけでなく、孤立しがちな親の仲間づくり、情報交換、相談の場
- ・利用者と職員のコミュニケーションの場。「自由ノート」に来場者が自由に感想や意見を書き込む
- ・一時保育室を開設し、一時保育のニーズにも対応



3 施策の開始前に想定した効果、数値目標など

子育ての駅において、さまざまな子育て支援・多世代交流イベントや啓発事業を実施することで、積雪のある冬でも多くの市民が気軽に集いあい、ふれあうことができるようになり、親の育児ストレスや不安の軽減及び児童の健やかな育ちが期待できる。

4 現在までの実績・成果

(1) 子育ての駅てくてくの利用状況

雪国のお父さん、お母さんの声から生まれた子育ての駅には、市外からも大勢の子ども連れの方が来ている。



施策事例 1

施策事例 2

施策事例 3

施策事例 4

施策事例 5

施策事例 6ア

施策事例 6イ

施策事例 6ウ

施策事例 6エ

施策事例 6オ

- ・入館者数 195,056人 (H22.4.29現在。オープン以来の累計)
- ・入館者の内訳 長岡市内…約7割 市外・県外…約3割

(2) 市民力による子育て応援の取り組み

子育ての駅から、世代を越えた子育て応援の輪が広がっている。

① 「子育ての駅サポーター」について

高校・大学・専門学校生をはじめ、子育て中のお父さん、お母さん、そして子育ての先輩など、幅広い世代の皆さんから「子育ての駅サポーター」として登録していただき、子育ての駅の活動に参加・協力してもらい、世代を越えてつながる子育て応援を進めている。

・サポーターの登録状況 (H22.4 現在)

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
人数	2人	12人	7人	5人	3人	10人	2人	41人

・サポーターの活動状況 (H21 実績) 54回、延べ139人

・主な活動内容

絵本の読み聞かせ、花植え、野菜栽培、楽器演奏 (フルート、オカリナ、ハーモニカ、バイオリン)、歌、外国語、絵画、写真、食育、子ども見守り、昔遊び、手芸、運動、イベントの手伝い等

② 「子育ての駅運営委員会」について

公募市民10人による「子育ての駅運営委員会」を設置し、子育ての駅で行う交流イベント等の企画・運営や施設の効果的な活用方法の検討など、施設の運営に協力していただき、市民と協働で事業を展開している。

(3) 子育て相談の状況

“保育士のいる公園” 子育ての駅には、毎日のように子育て相談が寄せられている。

「言葉が出るのがほかの子どもより遅い…」[「どうも落ち着きがない…」][「しつけはどのようにしたらいいの…」]等、子育ての駅では、保育士が保護者とコミュニケーションを取る中で、毎日のように子育ての相談に乗っている。

5 導入・実施にあたり工夫した点や苦労した点とその対処法・解決策など

- (1) 「子育ての駅サポーター」制度を導入し、市民参加型の事業運営を行った。
- (2) 「子育ての駅運営委員会」を設置し、市民と協働で事業を展開した。
- (3) 子育ての駅の専用のホームページを開設した。
- (4) 子育て支援サークル、親子サークル、ボランティア等による「子育てフェスティバル実行委員会」を組織し、子育ての駅を会場として市民手作りの「子育てフェスティバル」を開催した。
- (5) 保健師、看護師、助産師、保育士、栄養士、歯科衛生士、家庭児童相談員、母子保健推進員、主任児童委員、先輩ママ、言語聴覚士、薬剤師等による「子育て相談事業」を毎月2～3回実施した。

6 今後の展開と課題

今後も「子育ての駅運営委員会」や「子育ての駅サポーター」等を活用して市民参加・協働型の事業運営を進めていく。

予算関連データ

総額 ①～⑤の計	財源内訳 (財源区分：①～⑤)					
	①国費	②県費	③起債	④その他	⑤一般財源	
H21：32,676千円	1,184千円	5,556千円	0千円	3,017千円	22,919千円	
①～④の名称、 所管など	名称	児童環境づくり基金整備事業費補助金 (児童育成事業推進等対策事業)	緊急雇用創出事業 臨時特別基金補助金	特別保育推進事業費補 助金	一時保育事業保護者負担金等	
	所管	厚生労働省	新潟県	新潟県	—	
	金額	1,184千円	1,476千円	4,080千円	3,017千円	
	補助率	10/10	10/10	2/3	—	